

設 立 趣 旨 書

近年、労働人口不足に対応した国の外国人受け入れ政策により外国人人口は増え続けています。とくに金沢区には1990年の入管法改正以来、日系人が多く住んでおり、最近ではベトナム人、ネパール人、フィリピン人も増えています。

日本で暮らす外国人は、言葉や習慣の違いから、なかなか生活に溶け込めず、日常生活に不安を感じているのが現状です。

「横浜市多文化共生まちづくり指針」にあるように、国籍や民族などの異なる人々がそれぞれの文化的背景を認め合い、対等な人間関係を築いていく社会が望ましいと私たちは考えています。外国人がともに生活者として地域で安心して暮らせるようにお互いが助け合い理解しあえるようにしたいのです。

そのためには、外国人が安心できるよう、相談に行ける場所、日本語を学べる教室や気軽に話せる場所を用意することが必要です。同時に通訳や翻訳で支援する体制やくらしの情報提供も必要になります。

また日本の文化、習慣などを知る機会を設けることも外国人が地域を理解するきっかけとなります。同様に日本人へ外国人の文化を紹介していくことで日本人も多文化への理解を深め、お互いを尊重するようになります。

これまで私たちは任意団体として、1997年から「ふれんず金沢」で10年活動し、その実績をもとに2007年からは「金沢国際交流ラウンジ」の運営を受託し「金沢国際交流ラウンジボランティア会」と名称を変更して活動を続けてきました。外国人への日本語支援、外国につながる子どもたちの支援、外国人相談対応、地域への広報活動、地域の外国人と日本人との交流の活動をしています。

今後これまでの活動をより一層広めていくために、多くの方に参加していただき研修を通してボランティア育成に努めるとともに、学校、金沢区役所、横浜市立大学、他の団体とのネットワーク作りを推進し地域に貢献していきます。

以上の通り、私たちは設立以来任意団体として活動してきましたが、組織としての継続性、安定性を考え、さらに社会的に信頼される団体とすべく「特定非営利活動法人」の設立が望ましいとの結論に達しました。今後も、社会的に求められる透明性と情報公開を通じ、国籍を問わず賛同者を募り、多文化共生社会の実現に寄与していきます。

2021年12月19日

法人の名称 特定非営利活動法人 横浜金沢国際交流の会
設立代表者 四元 くみ子